

治山と林道



第41回 民有林林道工事コンクール 日本林道協会長賞

工事名 令和5年度（補正）林業生産基盤道開設事業 春日山線
施工者 堀建設株式会社 代表取締役社長 堀 大地

目 次

令和7年度通常総会を開催	1・2
県からのお知らせ	3
会員コーナー	4
県の取り組み紹介	5・6
トピックス	7・8
森林協会からのお知らせ	9
脱炭素社会の実現に向けた包括連携協定	10
島根県知事、県議会への要望活動	11・12
令和7年度全国治山林道コンクール	13~15
森林経営推進センターの取り組み	16~18

令和7年度通常総会を開催

令和7年7月24日、島根県林業会館において令和7年度通常総会を開催しました。

開会に当って、榎野会長から「近年、全国的に台風や局地的豪雨などによる大規模な自然災害が多発しているが、今後さらに地球温暖化の進行に伴って集中豪雨が増え、台風が大型化することが指摘されている。島根県は県土の大半が急峻な山地で占められ、また全県が特殊土壌地帯に指定されるなど地質的にも脆弱であることから、過去にも幾多の災害に見舞わされてきた。中でも昭和58年7月に島根県西部を襲った集中豪雨では107名もの尊い命や貴重な財産が奪われたが、その多くは土砂災害によるものだった。こうした過去の災害の記憶を風化させることなく、防災意識の醸成に努めるとともに、山地災害防止のため治山事業や森林整備事業の一層の推進を図らなければならない。

一方、森林は、国土保全、水源のかん養、地球温暖化の防止、木材の生産等の様々な機能を有しているが、これらの機能を持続的に発揮させていくには、森林資源を循環利用していくことが求められている。

このような中、島根県では、第2期「島根創生計画」の農林水産業における実行計画、第2期「島根県農林水産基本計画」が本年度からスタートした。この計画の中で治山・林道事業関係では、これまでに取り組んできた循環型林業の定着・拡大を一層進めるため、引き続き原木生産の生産性の向上を図る生産基盤として、林業専用道をはじめとする路網の積極的な整備や、将来にわたって原木生産活動が続けられるよう、そのフィールドとなる森林を保全するため、新たに治山事業の推進が明記された。

森林協会は、こうした状況を踏まえ、山地災害の防止や健全で活力ある森づくりを目指し、中央協会をはじめ関係機関や団体と連携を図り、森林・林業施策の充実・強化と予算の確保に向けた要望活動に取り組むとともに、森林や林業についての県民理解を深めるためのPR活動や、会員向けの技術研修会の開催等、技術向上対策に取り組んでいく。

また、「森林経営推進センター」や「しまね森林活動サポートセンター」等、市町村や県から受託している業務の円滑な運営に取り組んでいく。との挨拶がありました。

また、総会に先立って森林土木事業功労者及び治山・林道コンクールの表彰式を執り行い、功労者、優良工事及び業務の表彰を行いました。

続いて、(一社)日本治山治水協会・日本林道協会会长様、林野庁近畿中国森林管理局島根森林管理署署長様、島根県農林水産部部長様からご祝辞を頂いた後、議事に入り、提案した5議案は全て提案どおり承認されました。



榎野会長あいさつ



工事コンクール表彰

令和7年度 協会長表彰受賞者

(1) 森林土木事業功労者

(敬称略)

所 属	氏 名	備考
美郷町	添 谷 正 夫	

(2) 治山・林道コンクール

① 治山工事コンクール

工 事 名	施工場所	受賞者 (代表者)	備考
令和5年度 県単施行地管理(災害分)事業 (下岡南) 山腹工事	松江市秋鹿町 地内	アサヒ工業株式会社 代表取締役 實重 正樹	
令和5年度 林地荒廃防止施設災害復旧事業 (灘組) 山腹工事	松江市西長江町 地内	一畠工業株式会社 代表取締役社長 高井 由起夫	
令和6年度 復旧治山事業(八幡工区) 山腹工事	出雲市佐田町大呂 地内	今岡工業株式会社 代表取締役 今岡 幹晴	
令和6年度 林地荒廃防止事業 佐津目地区 山腹工事	大田市山口町 佐津目地内	株式会社 堀工務店 代表取締役 堀 博彦	★
令和6年度 緊急予防治山事業 高橋地区 山腹工事	浜田市相生町 地内	今井産業株式会社 代表取締役 今井 久師	

② 林道工事コンクール

工 事 名	施工場所	受賞者 (代表者)	備考
令和5年度(補正) 林業生産基盤道開設事業 春日山線 工事	益田市匹見町落合 地内	堀建設株式会社 代表取締役社長 堀 大地	★

③ 治山・林道木材使用工事コンクール

工 事 名	施工場所	受賞者 (代表者)	備考
令和6年度 防災林造成事業 波来浜地区 防風柵工事	江津市黒松町 地内	島根県浜田県土整備事務所 農林工務部治山・林道第二課	★

④ 林道維持管理コンクール

路 線 名	所在位置	受賞者 (管理者)	備考
小峠線	仁多郡奥出雲町 八川～大馬木	奥出雲町長 糸原 保	★

⑤ 森林土木部門業務コンクール

業 務 名	業務場所	受賞者 (代表者)	備考
令和5年度 林業専用道開設事業 皆井田円の板線 測量設計業務	邑智郡邑南町井原 地内	株式会社 大屋ハイテック 代表取締役 大屋 勝平	

備考欄★印：(一社)日本治山治水協会、日本林道協会推薦

第2期島根県農林水産基本計画における治山・林道の取組について

島根県 農林水産部 森林整備課 森林基盤整備・防災対策室

1. 島根県農林水産基本計画について

県政策推進の総合計画である「島根創生計画」は令和6年度を以て第1期5力年計画が終了しました。総合計画に併せて林業の実行計画として策定した「島根県農林水産基本計画」も計画期間を終え、この間様々な取組みを進めた結果、植栽から伐採までの森林経営の収支モデルは赤字から黒字に転換しました。

本年度からの5力年計画として策定した第2期農林水産基本計画では、人材不足や物価高騰など新たな課題の中でも林業経営が成り立つよう、従来の取組に生産性向上や省力化といった視点の取組も加え、循環型林業の確実な定着・拡大を進めてまいります。

2. 基本計画においての林道の取組

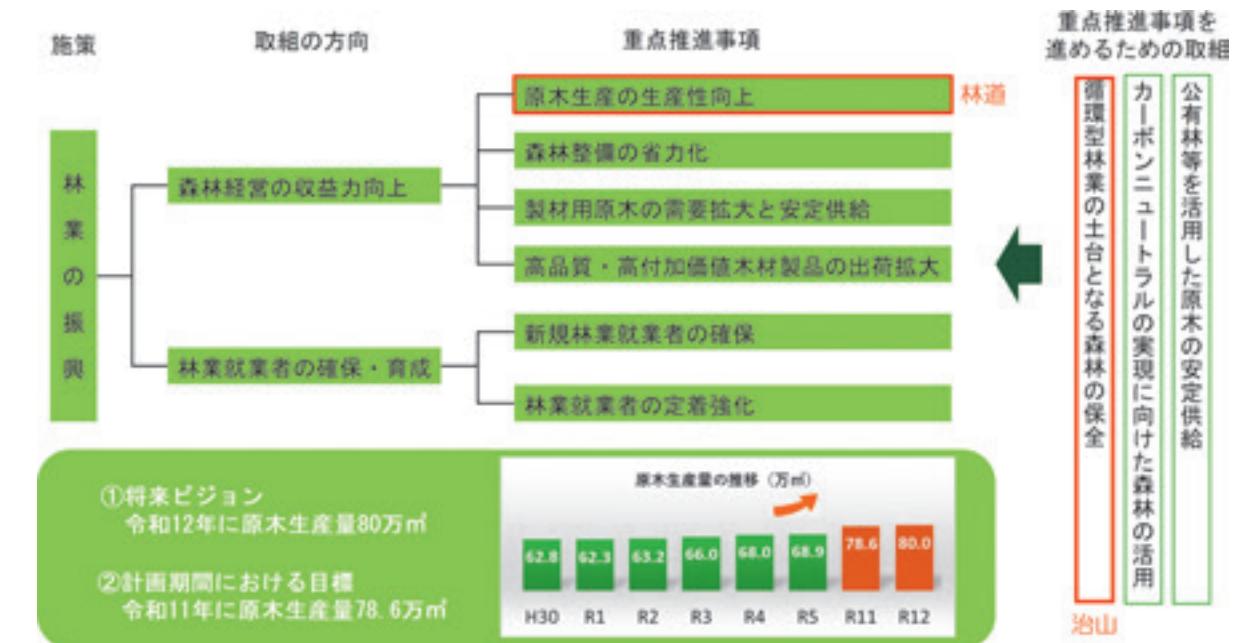
重点推進事項である「原木生産の生産性向上」の取組として引き続き林内路網等の基盤整備の促進を図ります。特に効率的な原木生産に必要となる林業専用道を中心に整備を進めます。

令和7年度は公共林業専用道では県営13路線、団体営7路線の合計20路線を整備していますが、目標とする原木生産量に必要とされる林業専用道整備量にはまだ不十分な状況にあるため、今後も整備路線数を拡大する必要があります。各地域の関係者で必要となる路網情報を共有し、効率性や即効性のより高い林業専用道の掘り起こしを重点的に推進します。

3. 基本計画においての治山の取組

第2期計画では、重点推進事項を進める（下支えする）取組として、新たに3つの取組が加わりました。この取組の1つとして、林業のフィールドとなる森林を将来に向け維持していくことを目的に「循環型林業の土台となる森林の保全」を掲げ、森林を保全する各種制度の運用や森林の再生・崩壊防止に取り組むこととしました。治山事業はこの取組の一役を担う事業として位置づけ、森林整備事業による荒廃森林の再生、施設整備による林地崩壊の防止に取り組みます。

第2期農林水産基本計画（体系図） 林業



奥出雲町における木育の取り組み

奥出雲町 環境政策課

【はじめに】

奥出雲町では、先人たちから受け継いだ奥出雲の豊かな自然環境や地域社会を後世に引き継ぐため、脱炭素社会の実現を目指すことを決意し、令和5年6月9日に脱炭素宣言を行いました。その取り組みのひとつとして、木育の推進を掲げています。本町で取り組んでいる取り組みの一部を紹介します。

【ウッドスタート】

暮らしの中に木を取り入れ、木の持つ可能性を最大限引き出し、それを子育てに生かす取り組みを、東京おもちゃ美術館と協力して進めていくウッドスタート宣言を令和7年4月24日に行いました。当日は、調印式の後、町内の赤ちゃんに町内産材で作られた積木を送りました。今後も町内の赤ちゃんに町内産材で作られたおもちゃを送る予定です。



【親子で木育ロボ木一づくり教室】

令和5年度より木育の第一人者 島根大学 山下晃功名誉教授を講師に迎え、親子でヒノキの部品を組み立て、ロボットを作り、自由に飾り付けを行いながら、光合成や自然環境について学ぶ教室を開催しています。毎回大人気の教室となっており、今年の教室も大盛況でした。



海岸林（マツ林）の再生に関する取り組みについて ～現状と課題～

出雲地区森林組合 事業部

はじめに

出雲地区の海岸林は、クロマツを主体とした、風光明媚な景観を構成する重要な保安林であるとともに、強風や塩害から家屋や農地を守り、また高度経済成長期まで生活燃料や肥料の資源供給の場として地元住民の生活環境を長い間守ってきました。

マツのように、栄養の乏しい海岸線の土壤で大きく育ち、森林を作ることができる木は他にほとんど無く、ゆえにかけがえのない大変重要なものです。

ところが、近年の海岸林は、マツクイムシ被害と潮風害により、危機的状況に陥っております。今回は近年のマツ林の現状と取り組みについて紹介させていただきます。

近年の枯れ松被害の状況

全国の松くい虫被害は近年減少傾向にあったが、令和5年以降12年ぶりに増している（林野庁HP引用）と言われています。出雲地区の現状も全国と同様であり、海岸線沿いのマツ林に顕著に枯れ松の被害がみられています。出雲地区では、行政と協力し枯れマツ処理をおこなっていますが、追いついていない状態です。マツ材線虫症の媒介もとなるマツノマダラカミキリが孵化する6月までに被害木を処理します。マツノマダラカミキリの幼虫は小径部位にも存在するため、近年では林内に移動式粉碎機を持ち込み、徹底的に被害木の粉碎を行っています。



写真1 粉碎作業風景

植樹の取り組みの内容

出雲地区森林組合は以前から島根県や地元住民による有志の集まりと協力し、海岸線のクロマツの植樹を行っています。出雲の海岸線は西風が強く、飛砂による、被害が出るため植樹の際に防風・防砂用の静砂垣根を設置し、その内側に植樹を行います。そのため植栽地の風景は独特なものとなります。その姿は厳しい自然環境の中で暮らす人々の知恵と工夫が生み出した、機能美を備えた独特的な生活景観と言えます。



写真2 地元住民による植栽



写真3 静砂垣根風景 (湊原)

課題

近年の枯れ松の状況を考慮すると今後も枯れ松の伐採・処理とともに植樹も積極的に進めいく必要性があると考えられます。行政と協力し枯れ松の処理を行っていますが、行政の管理地外(例 個人宅の敷地に植えられたもの)は処理できていないもののが有り、防除が徹底されていないのが現状です。マツ材線虫症の伝播の恐ろしさが伝わっていないため、被害にあったマツを放置する人が見受けられます。植樹した人々にマツ材線虫症の情報を周知し、植えるだけでなく管理に対する意識を高める必要性があると思います。

定置式ポンプ（ピストン式）を使用した 治山ダムのコンクリート打設について

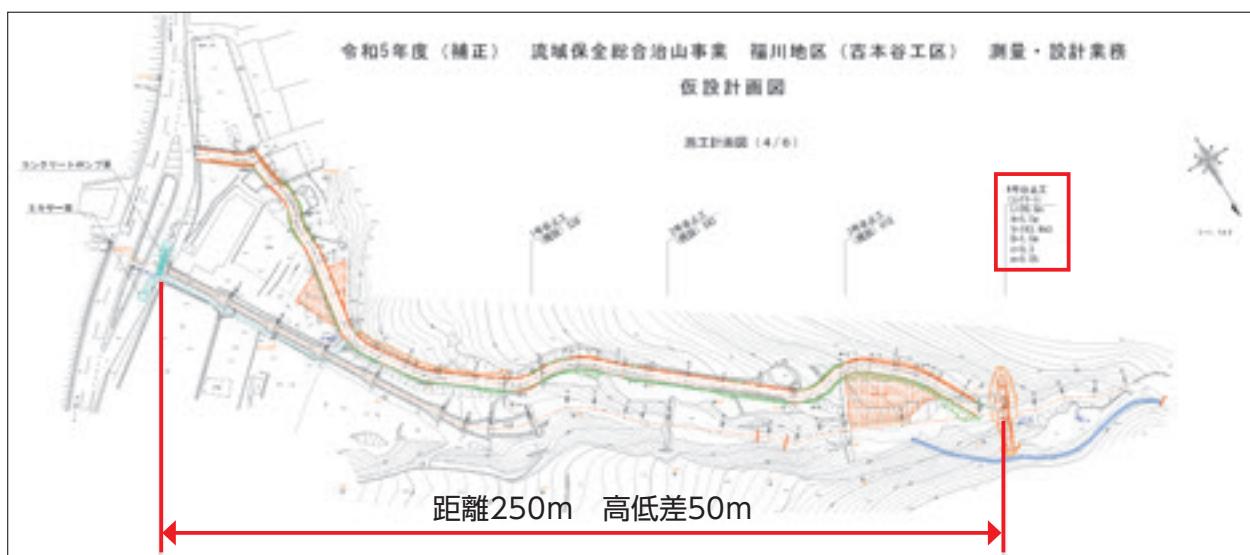
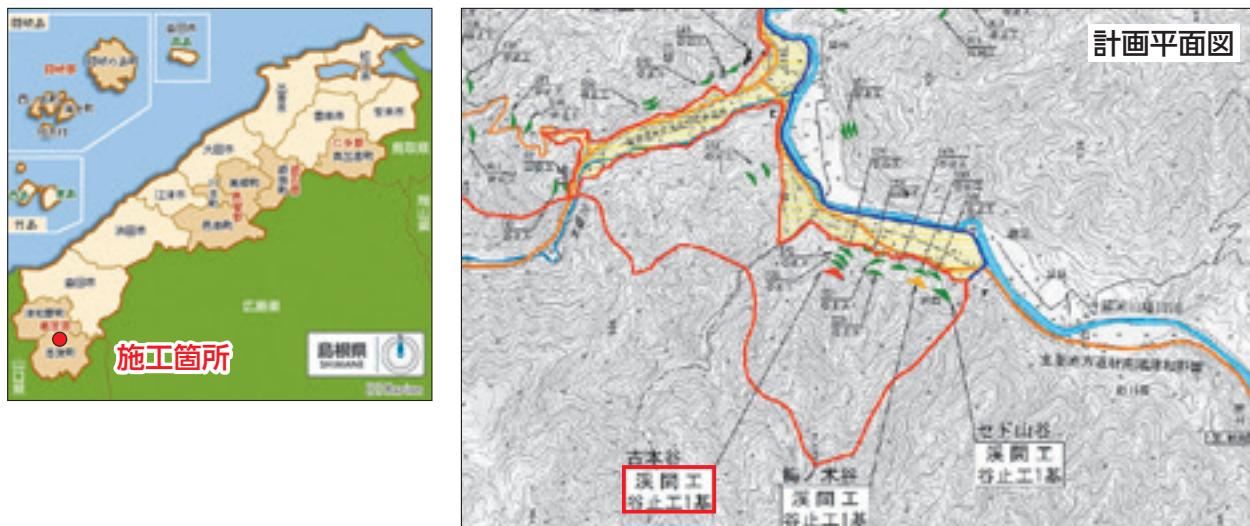
益田県土整備事務所 治山・林道課

当管内において整備した治山ダムの現場で、圧送能力の高い定置式ポンプ（ピストン式）によるコンクリート打設を行いましたので紹介します。

経 緯

鹿足郡吉賀町福川地内の福川地区（古本谷工区）においては、既設治山ダム3基により渓床勾配を緩和し渓流浸食の防止を図っていました。近年の豪雨により、さらに上流の渓流荒廃が進み、今後の豪雨によっては下流へ土砂が流出する恐れがあることから、治山ダムの追加を計画しました。

追加する治山ダムは、仮設進入路入口より距離250m、高低差50mに位置しておりました。仮設進入路の勾配が急で、生コン車は進入出来ないことから、コンクリート打設は仮設進入路入口からポンプ車（スクイーズ式）で行う設計としていました。



工事発注後、受注業者による施工計画検討の結果、今回の施工条件は距離と高低差が大きく、スクイーズ式によるコンクリート圧送は出来ないとの協議があり、改めてコンクリート打設方法の検討を行いました。検討結果は次のとおりです。

検討結果

案① モノレールによるコンクリート運搬【経済性：× 施工性：△】

- ・重量物の運搬に耐える巨大なレールが必要となるため高額となる。
- ・運搬1往復に係る打設量、サイクルタイムが長く施工性が悪い。

案② 索道（ケーブルクレーン）によるコンクリート運搬【経済性：× 施工性：×】

- ・県道を横断する架設が必要となり、道路管理者との協議に時間を要する。
- ・ダム位置でバケットの横取りが必要となり、施工性が悪い。

案③ 定置式ポンプ（ピストン式）によるコンクリート運搬【経済性：△ 施工性：○】

- ・通常のポンプ車（スクイーズ式）より高額となる。
- ・長距離圧送が可能で、ダム位置での打設ポイントを容易に変えられるため施工性が良い。

以上の結果、案③「定置式ポンプによるコンクリート運搬」を採用することとしました。

施工状況

定置式ポンプ（ピストン式）は県内に対応出来る業者がいないことから、実績のある広島県の業者に依頼することにしました。

ポンプ設置・配管・撤去にそれぞれ3日間ずつを要しましたが、ピストン式の圧送能力は $55\text{m}^3/\text{h}$ で、生コン車1台分の 4 m^3 を5分程度で圧送でき、治山ダム1基 193.8 m^3 を約 $50\text{m}^3/\text{回}\cdot\text{日}$ の打設量で、4回の打設で終えることが出来ました。

また、今後このような奥地での治山ダム計画が増えていくことが想定されるため、関係者を対象とした現場見学会を企画したところ、県職員20名・建設コンサルタント職員15名の参加がありました。見学会に協力していただいた、施工業者の皆様にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

最後に

今回の事例を通じて、現場に適用できる設計を予めきちんと行っておく必要があると痛感しました。難しい現場でしたが、現場見学会を通じて多くの関係者に情報提供でき、今後同じような現場で計画をする際に役立てていただければと思います。



定置式ポンプ（ピストン式）圧送機



ダムコンクリートの打設

治山・林道1年目職員を紹介

雲南県土整備事務所 治山・林道課
技師 日 原 めぐみ



今年度、新規採用職員として治山・林道課に配属されました。現在は、雲南市、飯南町、奥出雲町の治山・林道事業を担当しています。初めは、土木の基礎も知らない状態で不安でしたが、先輩や上司の方々にサポートしていただき、少しづつ森林土木を学んでいます。

この8ヶ月で、測量設計、発注、監督、検査という一連の流れを学び、ようやくスタートラインに立ったように思います。工事が進み完成に近づく様子を見ると、大きなやりがいを感じる一方で、工事ごとに条件が大きく異なるため、現場へ足を運び、自分の目で確かめることの重要性を痛感しています。

これからも知識と経験を積み、島根の森林土木に貢献できるよう努力していきます。

県央県土整備事務所 治山・林道課
技師 伊 丹 叶



私は今年の4月に島根県に入庁し、現在は治山・林道課で治山事業、保安林機能向上のための森林整備工事などの発注と工事現場の監督をしています。土木分野は経験したことのない分野で、設計や工事の流れ、聞き慣れない専門用語など分からぬことが多い苦戦する日々ですが、初めて学ぶことも多く、新鮮な日々を送っています。

まだまだ勉強中で、周りの方々にご指導やサポートをいただいておりますが、今後も研修への参加や現場に積極的に足を運ぶことで、森林土木の知識や経験を身につけたいです。島根県林業職員として豊かな森林を守れるよう精一杯業務に取り組んでいきます。

浜田県土整備事務所 治山・林道第一課
主任技師 畑 中 智 統



私は今年度から治山・林道第一課に配属され、金城弥栄線（浜田市弥栄町）と高丸山線（江津市波積町）を現在担当しております。

森林土木は未経験であったため、積算システムやCAD等聞き覚えのないものばかりで最初はかなり苦戦しましたが、先輩方のサポートもあり、また現地協議等の経験を重ねていくにつれ、森林土木にも徐々に慣れてくることができました。

結果として、今では設計書の作成や図面の読解等、当初と比較してかなり成長したと実感しています。

今後も、経験を積み重ね、森林土木の職員として日々努力し成長していきたいです。

森林を活用した脱炭素社会の実現に向けた 包括連携協定の締結について

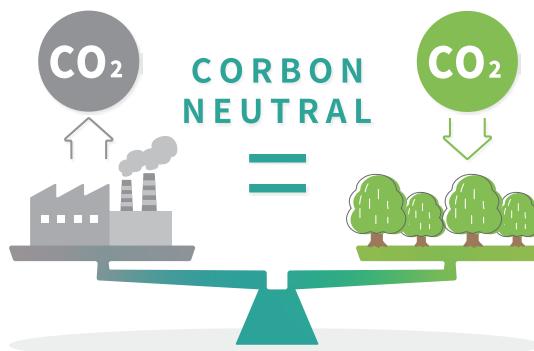
当協会は、島根県、島根県森林組合連合会、一般社団法人島根県森林協会、公益社団法人島根県林業公社およびENEOS株式会社の5者による森林を活用した脱炭素社会に向けた包括連携協定を令和7年8月29日に締結いたしました。

本協定は、県内で創出される森林吸収系クレジットの売上により、森林における温室効果ガスの吸収能力を活用した脱炭素社会の実現や、循環型林業の拡大を図ることを目的としています。



島根県庁 講堂にて

左から 一般社団法人島根県森林協会 会長 下森 博之
 島根県森林組合連合会 代表理事長 絲原 德康 様
 島根県知事 丸山 達也 様
 ENEOS株式会社 常務執行役員 村橋 英二 様
 公益社団法人島根県林業公社 理事長 小林 淳一 様



島根県知事、島根県議会への要望活動

島根県森林組合連合会、(一社)島根県森林協会、(一社)島根県木材協会、島根県林業種苗協同組合は、令和7年10月27日(月)、4つの要望項目について丸山知事、石原副知事、野間総務部長、山本農林水産部長をはじめ関係部局の幹部へ、また9月18日(木)には島根県議会へ要望活動を行いました。

【知事への要望】



島根県知事と林業四団体



各団体から要望内容を説明（下森会長）

【島根県議会への要望】



要望を受ける島根県議会議員



各団体から要望内容を説明



<要望項目>

1 原木生産、再造林のさらなる事業拡大に向けた取組への支援

- (1) 原木生産のさらなる事業拡大に向け、立木の伐倒・集材・運搬などの作業を効率化するため、ICT等の新たな技術の導入を促進すること
- (2) 国、県及び市町村が其々に所有している航空レーザ計測データの共有を関係者に働きかけ、森林資源データを幅広く利用できるよう、体制を整備すること
- (3) 原木増産に伴い増加する再造林や下刈り等を確実に行うために、森林整備予算を増額するとともに、ドローンによる苗木運搬の推進など、造林事業において、省力化機器による作業の実態に即した支援を行うこと
- (4) 下刈りの作業時期を検証するなど、猛暑により重労働となっている森林施業への対策を強化すること
- (5) 原木生産の生産性向上に不可欠な林業専用道の整備を促進するため、資材高騰等を踏まえた十分な予算を確保すること
- (6) 成長の早い苗木を植栽し、下刈り回数の低減等による森林整備の省力化を推進するために、特定苗木の種子供給体制を強化するとともに、夏の猛暑による苗木被害を防止するための散水施設の整備を引き続き支援すること

2 県産木材の需要拡大と高品質木材製品の供給体制強化への支援

- (1) 原木の増産に見合った流通・供給体制を強化するため、木材流通施設や製材加工施設等の整備・拡充に必要な予算を確保すること
- (2) 建築物の木造化・木質化を推進するとともに、特に木材利用が低調な非住宅建築物への対策を強化すること

3 林業・木材産業の担い手確保と定着、労働環境の整備に向けた取組への支援

- (1) 学校教育現場との連携等により、森林・林業・木材産業の魅力を広く県民にPRし、担い手の確保対策を強化すること
- (2) 全産業で人手不足が深刻化する中、林業就業者の確保に向け、U・Iターン者や外国人など地域外からの新規就業、定着を推進すること
- (3) 熱中症やハチ刺され、ツキノワグマ等による労働災害を防止するため、事業体が実施する労働環境の整備や、安全対策のための装備品等への支援を強化すること

4 気候変動により年々激甚化する豪雨や台風による山地災害から県民の生命・財産を守るため、資材高騰等を踏まえた十分な治山事業予算を確保すること

令和7年度 全国治山・林道工事コンクール

令和7年11月19日、一般社団法人日本治山治水協会、日本林道協会主催による治山・林道工事コンクールの表彰式が海運クラブ 2階ホール（東京都）で行われ、島根県から推薦した工事等が、各賞を受賞しました。



日本治山治水協会山口会長あいさつ



一般社団法人日本治山治水協会会长賞

株式会社堀工務店 代表取締役社長
堀 太輔氏 (前列左端)



一般社団法人日本治山治水協会会长賞

浜田県土整備事務所 農林工務部 治山林道第二課 主任
菊地 亮介氏 (前列左端)



日本林道協会長賞

堀建設株式会社 代表取締役社長
堀 大地 (後列 右2人目)

1. 第41回 民有林治山工事コンクール

- 受賞区分 一般社団法人日本治山治水協会会长賞
- 工事名 令和6年度 林地荒廃防止事業 佐津目地区 山腹工事
- 受賞者 株式会社 堀工務店 代表取締役 堀 博彦



2. 第26回民有林治山木材使用工事コンクール

- 受賞区分 一般社団法人日本治山治水協会会长賞
- 工事名 令和6年度 防災林造成事業 波来浜地区 防風柵工事
- 受賞者 島根県浜田県土整備事務所 農林工務部治山・林道第二課



3. 第41回民有林林道工事コンクール

■受賞区分 日本林道協会長賞

■工事名 令和5年度（補正）林業生産基盤道開設事業 春日山線 工事

■受賞者 堀建設株式会社 代表取締役社長 堀 大地



4. 第48回林道維持管理コンクール

■受賞区分 林野庁長官賞

■路線名 小峠線

■受賞者 奥出雲町長 糸原 保



森林経営推進センターの取り組み

1. 令和7年度の市町村担当職員等研修会

当センターでは森林経営管理制度の内容に加え、森林・林業に関する技術的な知識を提供する場として担当職員向けの研修会を開催しています。

今年度は次の研修会を開催し、市町村担当職員の執務能力の向上をサポートしました。

また、この他にも今年度からは研修事業の更なる充実を図るため、県林業関係職員向け研修を開講座として市町村職員に開放する取り組みを行っています。

(1) 新任林業関係職員研修【初級】

日 時：令和7年5月12日（月）9:00から13日（火）14:30

場 所：島根県職員会館 教養室3（12日） 松江森林組合、野呂樹苗生産組合（13日）

講 師：県庁各課及び県中山間地域研究センター担当者

内 容：森林、林業及び木材産業に係る基礎的知識の習得（12日）

伐採-再造林一貫作業、コンテナ苗等生産現場の視察（13日）

(2) リモートセンシングデータ活用事例研修

日 時：令和7年6月26日（木）10:00から15:30

場 所：島根県林業会館 大研修室

講 師：アジア航測株式会社 西日本国土保全コンサルタント技術部 横田潤一郎 氏

安東憲佑 氏

内 容：森林境界明確化へのデータ活用

森林施業へのデータ活用、路網設計

(3) 森林経営管理制度担当職員研修

日 時：令和7年8月18日（月）13:00から15:30

場 所：島根県林業会館 大研修室

講 師：林野庁 林政部 経営課 野村祐樹 氏

内 容：森林経営管理法等の一部改正

森林環境税・森林環境譲与税の有効活用



(4) QGIS（地理情報システム）基本操作研修

日 時：令和7年10月16日（木）10:00から16:30

場 所：島根県林業会館 中会議室

講 師：島根県森林協会 森林経営推進センター 小草 晋 地域推進員

内 容：QGISを活用した各種データの追加、編集

テキストデータ、地図（紙）からのGISデータ化

(5) 伐採に係る収支計画作成研修

日 時：令和7年12月5日（金）13:00 から 15:15

場 所：島根県林業会館 大研修室

講師①：島根県 農林水産部 林業課 公有林係 荒金耕平 氏

内容①：公有林等における立木評価、経費算出

講師②：出雲市 農林水産部 森林政策課 曽田友樹 氏

内容②：出雲市の取り組み事例紹介



QGIS基本操作研修



伐採に係る収支計画作成研修

2. 森林経営管理制度の取り組み状況（令和7年9月現在）

市町	管理権集積計画	実施権配分計画	
	面積(ha)	面積(ha)	計画数
松江市	0.93	0.60	2
安来市	3.34	3.34	1
出雲市	11.21	—	—
大田市	6.11	6.11	2
川本町	1.95	1.95	1
邑南町	46.10	46.10	3
江津市	12.08	12.08	2
浜田市	16.25	16.25	2
吉賀町	1.31	1.31	1
計	99.28	87.74	14

センターでは隱岐島前3町村を除く16市町を支援しています。

令和元年度の制度開始以降、県内市町の経営管理権集積計画、経営管理実施権配分計画の策定状況は左表のとおりです。

*業務委託対象市町の内計画策定済み市町のみ記載

9市町99haで集積計画が策定され、内8市町88haで配分計画が策定されています。

また左記以外の市町においても非管理森林の解消に向けて鋭意取り組みが行われています。

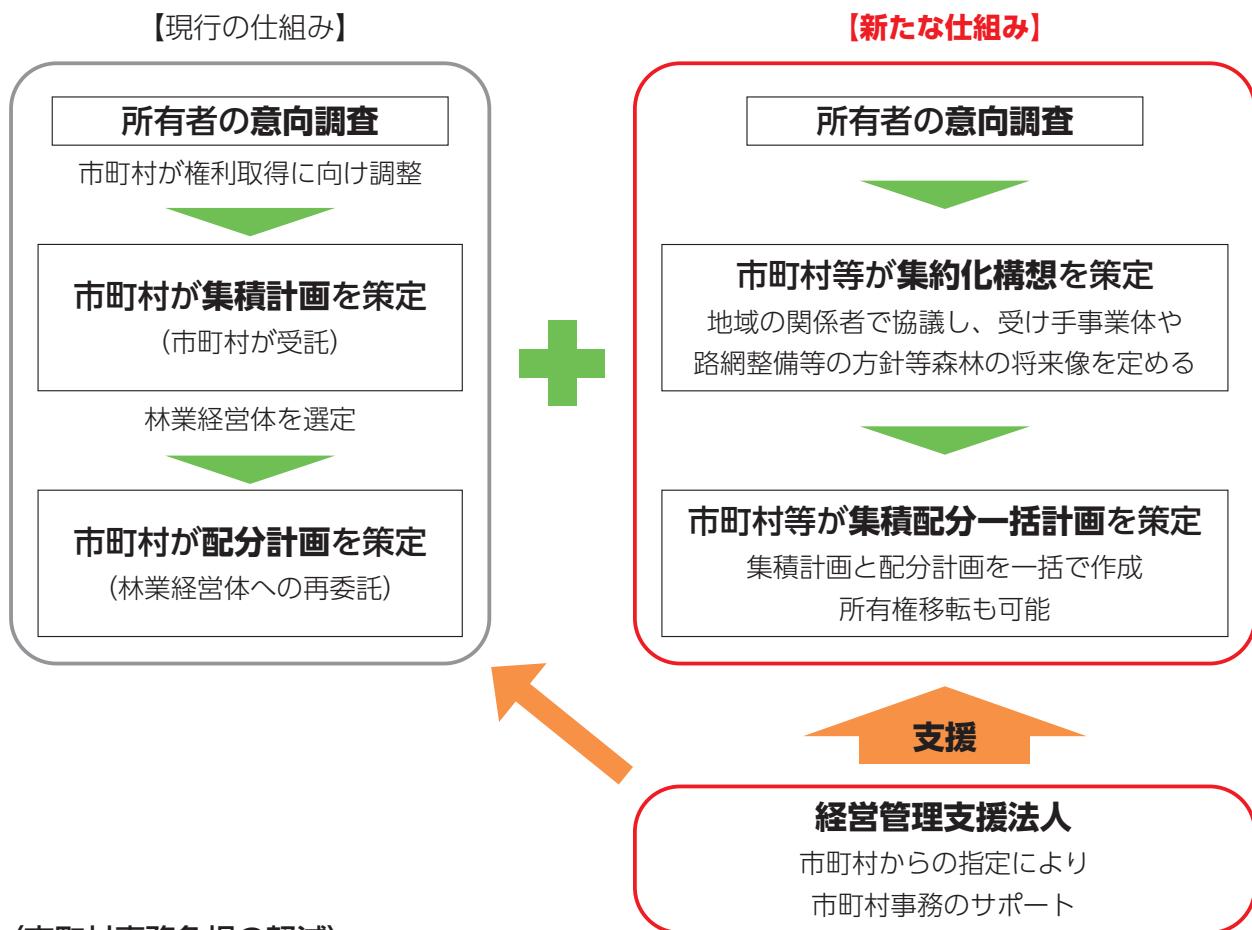


新たな森林管理システム
出雲市地域協議会による
先進地（四国）視察

3. <参考> 森林経営管理法の改正について

国においては森林経営の集積・集約化を一層推進するため、今年5月に森林経営管理法及び森林法の一部が改正され、来年（2026年）4月1日に施行されます。その概要は以下のとおりです。

〈森林の集積・集約化を進めるための新たな仕組みの構築〉



〈市町村事務負担の軽減〉

(市町村事務支援)

- ・経営管理支援法人が委託を受けて事務支援

(手続要件の緩和)

- ・経営管理権の設定に関する同意要件の一部緩和 ⇒ 間伐・保育については過半の同意で可能
- ・所有者不明森林の特例等に係る手続きの迅速化 ⇒ 公告期間を6か月から2か月に短縮
- ・伐採、造林届出の一部省略 ⇒ 市町村が自ら伐採を行う場合は届出の対象から除外



治山と林道 2025 No.133

発行 令和7年12月

編集 一般社団法人島根県森林協会

島根県松江市母衣町55番地

電話 (0852) 21-2669 FAX (0852) 21-2231

<https://shinrin-shimane.jp/>

E-mail : kyoukai@shinrin-shimane.jp

印刷 株式会社クリアプラス